

◆ビオトープ・イタンキの活動に携わって

ビオトープ・イタンキの活動に携わり、15年近くになります。息子と学校(当時海陽小学校)の実験的に作った小さな池で、泥だらけになり、夢中になってオタマジャクシを捕まえたことは私にとっての大切な思い出です。また、ユースホテル眼下に広がる丘陵地にクリンソウを植樹したり、ホタルを育てたりしたことも素晴らしい経験でした。

転勤で室蘭を離れる時期があり、5年前に室蘭に戻ってまいりました。ビオトープの活動が市民の皆様に理解され、普及されていることに喜びを感じました。

ビオトープ・イタンキは、学校現場において生活科・総合的な学習の時間で有効活用できるとも貴重な地域財産です。今では池は増築・拡張され、トミヨ、ドジョウ、コオイムシ・・・たくさんの水生生物が生息しています。自然体験学習では、子どもたちは、夢中になって捕獲しています。網にかかると歓声を上げて、「先生、見て!」と我先にと報告してくれます。昔と変わらない子どもたちの光景に、私も思わず笑みがこぼれます。

生きているものを実際に手で触り、観察し、飼育していく中で、子どもたちは自然保護や生命について考えます。これは決して、ゲームの中のバーチャルな世界であったり、教室の中での机上では学べない貴重な直接体験です。本物に触れることで、価値ある学びを自ら体得していきます。

今年も室蘭や近隣の子どもたちが、ビオトープ・イタンキを訪れ、自然体験学習を通して、ふるさと室蘭のよさに気づいてもらいたいものです。(室蘭市立八丁平小学校 教諭 本多麻里)



小学校による自然体験学習の様子

◆子ども会での参加をして

7月28日、室蘭友の会の子ども会に参加するという家族に誘われ、ビオトープを訪れました。子どもが生まれる前にホタルを見に行き、6年ぶりくらいでしょうか。5歳の子どもは初めて生き物採取に挑戦しました。風が強く、前日に買った虫取り網の出番はありませんでしたが、会の方が用意してくれた魚用の網で貝をすくって楽しむことができました。最初は池のふちに立つのも怖がっていたのに、他の子がすくった貝を見て、自分でも貝が捕まえられることが分かると、すぐ夢中になって池を渡り網を入れていました。

せっかく復元した自然で生き物をとることに少し戸惑いましたが、自分も次第に子どもと同じく夢中になっていました。会の方は簡単にトミヨやドジョウを捕まえていて驚きました。もちろんキャッチ&リリースし、次に行くときもたくさんの生き物に会えることを願いました。

池の周辺の木々がしっかりと林になっていたのも印象的でした。子どもたちが生き物と出会える場所として、今後も発展されることを祈念いたします。(三木 一宏)



室蘭友の会の親子による自然体験学習